

2021 年度 一般選抜前期日程 小論文（長文理解）
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

アクティブ・ラーニングの現状を分析した渡部淳氏の『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書、2020 年）から、アクティブ・ラーニングで育つ学習者像について議論した部分を引用して、アクティブ・ラーニングに対する考えについて問いかけた。

設問 1 は、筆者が考える「アクティブ・ラーニングで育つ学習者像」である豊かな学びの経験を持つ自立的学習者を本文の主張に即して、字数制限の中での確かつ簡潔に表現する力が試されている。

設問 2 は、筆者が述べている「自己の特質への気づき」が、自分の現状を相対的に見ることによる異なる価値観や立場の多様性などに対する気づきと、アイデンティティの多重性への気づきであることを踏まえた上で、アクティブ・ラーニングに対する考えについて、自分の考えを具体的かつ理論的に表現する思考力や文章力があるかが問われている。

【解答傾向】

<設問 1 >

- ・概ね、解答は良好であった。
- ・「本文の主張に即して」と問われているにもかかわらず、本文の主張と関係のない自分の考えだけを盛り込んだ答案が見受けられた。
- ・アクティブ・ラーニングで育つ学習者像ではなく、問題文全体をまとめているものが若干名いた。
- ・設問 2 で求めている解答内容を、設問 1 で書いているものが見られた。

<設問 2 >

- ・「自己の特質への気づきを踏まえて」考えを書くべきだが、そもそも筆者の考えを踏まえていない答案が見られた。また、「自己の特質を得るため」にアクティブ・ラーニングが必要という意見もあり、設問の意図を十分理解できない答案も見受けられた。
- ・解答文の中で示されている事例とアクティブ・ラーニングとの関連性が不明確なものがあった。アクティブ・ラーニングに対する自らの意見は述べられているが、その根拠が示されていない、もしくは薄弱なものがあった。
- ・「自己の特質への気づき」に関するまとめがないものが散見された。また、アクティブ・ラーニングの体験談のみで意見のない答案があった。
- ・2 つの気づきを挙げる（自己の多様性、アイデンティティの多重性）場合、それらは似たような用語であって、異なる意味の用語である。
- ・アクティブ・ラーニングを積極的に（義務）教育に導入することに対しては、賛成意見が多数であった。導入の理由の例は、次のとおりである。①知識注入型教育の限界、②学習意欲の喚起および学習効率の向上、③生徒同士のコミュニケーション不足（背景にはスマホの普及、新型コロナの拡散）、④少数派意見の尊重（人種差別の解決の一助）、⑤グローバル化への対応力の養成、⑥個性重視型の教育、⑦客観的な判断力の養成、⑧消極的な生徒に積極性

を促す、⑨問題を他人事としてではなく、自分事として捉える（政治への無関心や投票率の低さを改善）、⑩自分自身を改めて見つめ直す機会など。

- 他方、少ないながらも反対意見があった。理由の例として、①たしかに相手を理解できるが、相手の優れた面だけとは限らず、劣った面も自ずと見えてくる。そうになると、ここから差別などの新たな偏見が生まれる可能性がある。②集団的活動には向いているが、個人的活動には向かない。③評価それ自体が難しい。何をもって高評価（あるいは低評価）とすべきかの判断基準はどうするのか。試験の結果、アクティブ・ラーニングを導入していないクラスのほうが、平均点が高かったとの言及もあった。

【その他 気づいた点】

○漢字ミス：誤字があると、採点者の心証はよくないので注意されたい。

暴発→異発、相対化→相対価、学習法→学習方、評価→評化、講義→講議、作法→作方、若者→若物、価値観→価値感、協調性→共調性、役割→約割、改善→解善

○表記方法：主語述語のねじれや、不適切な接続後の使用が散見された。適切な接続詞・改行を心がけて、読みやすい答案の作成を心がけてもらいたい。

- です・ます→である
- と思う→と考えられる
- とても・すごく→非常に
- なので→だから